

那須看護専門学校では、令和元年度の学校運営評価を行いました。

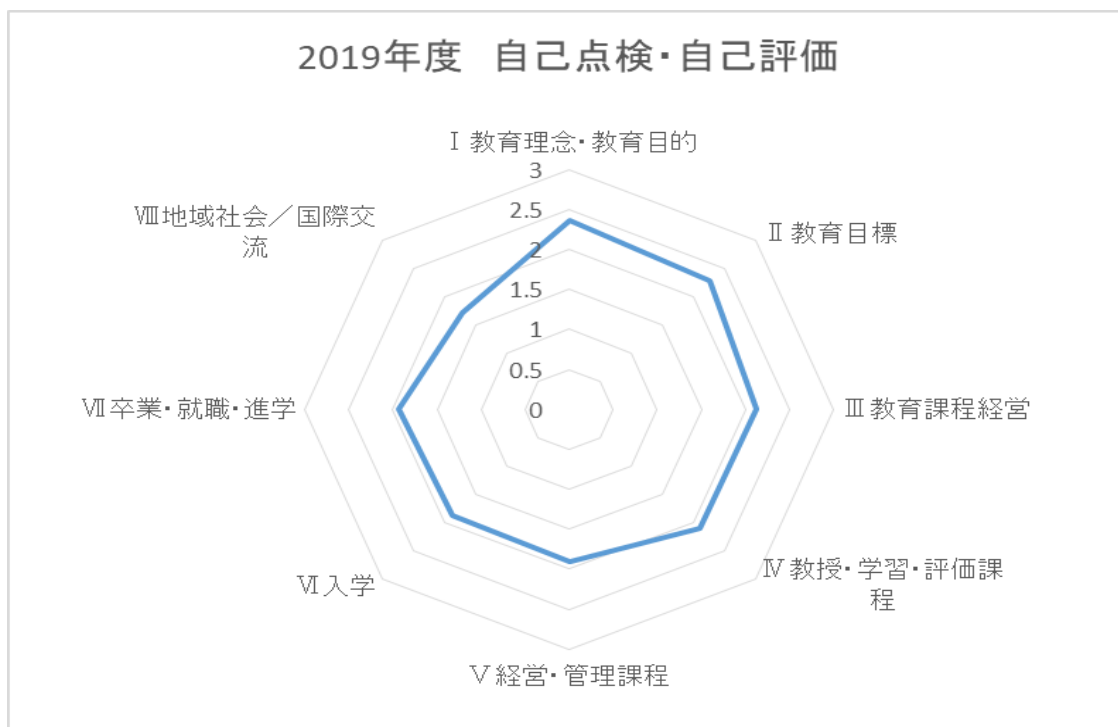
評価尺度は、

3 : 良い、 2 : ふつう、 1 : 不十分

の3段階です。

1. 自己点検・自己評価の結果

評価項目	I 教育理念・目的	II 教育目標	III 教育課程・経営	IV 教授・学習評価過程	V 経営・管理過程	VI 入学	VII 卒業就職進学	VIII 地域社会国際交流
評価	2.4	2.3	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.7



2. 評価結果の概要

I・II 教育理念・目的・目標について

母体である菅間記念病院の理念を基盤として、広く地域社会に貢献できる看護師を育てたいと考えている。卒業生像を具体的に示すことで、学生にも講師、地域の人たちにもわかりやすいように努めています。

III. 教育課程経営について

教育理念・目標に基づいて科目構成の考え方を示している。単位履修方法については、入学時や各年次のガイダンスにおいて具体的に説明し、担任が個別にも指導を行っている。学生が学習準備を整えられるよう、また復習時間を十分に持てるよう自主学習方法についても意欲をもって臨めるよう支援していきたい。

IV. 教授・学習・評価過程について

学校の長期目標に向かって教職員が個別目標をもち役割遂行を積極的に行えるように意識づけを継続していきます。

教育活動について学生の反応をふまえて教育課程を分析し、工夫・改善をしており、授業計画・評価を修正しています。基礎学力の向上を図るためのさらなる対策が必要だと考えています。

また、教職員の育成について、教員が研究・研修活動に積極的に参加できるような職場風土を作り、教員として必要な資質の向上に取り組んでいきたい。

V. 経営・管理過程について

学生生活への支援として、健康診断やその後のフォロー、カウンセリング室の開室など適時に行えるようにしている。カウンセラーによる相談時間は、昼休みから2時間とし、学生が利用しやすくした。また、必要時は保護者との連絡も密に取り、学生生活が無理なく継続できるように支援をしています。

施設・設備については、日頃から学生が学習しやすい環境づくりを心掛けている。制約はあるが安全を考慮しながら、各学年の学習進度に沿って必要な場所や備品の利用、使用時間の調整など工夫をしている。今後も利用状況を考察し効果的な活用ができるように努めていきます。

また、これまでの事象を踏まえ、危機管理体制について見直しをした。新たなリスクへの対応策を検討し、現在、すぐに実践に移せるよう文書の整備に取り組んでいます。

VI. 入学 について

ここ数年、定員の40名を割る入学生となっています。広報活動の充実と休学者・退学者を出さないようにすることが重要と考えます。

県北に限らず、県内全域、また白河や会津、郡山まで進学ガイダンスに赴き、学校のPRと看護の魅力を語ることでこの道の選択をPRする活動を年間通して行っている。オープンキャンパスでの対応は評価を得ている。また、学年に応じた国家試験対策を作成し、特に3年生には個別の指導を等精力的に取り組んでおり、今後も継続していきます。

VII. 卒業・就職・進学について

卒業生29名中、26名が県北の病院に就職した。(89.7%)

各病院に就職した卒業生が今年は5年目を迎え、病院の中核を担う存在となってきます。今後は、卒業生の到達状況や活動状況など、各病院における評価を把握し、教育内容や方法の改善につなげていく必要があります。

VIII. 地域社会・国際交流について

那須塩原警察署より依頼されている「交通安全リーダー」の役割を通して、地域の方々と触れ合う機会を持たせていただいている。

今後、地域包括ケアシステムの中で看護を実践することができるように、地域における医療連携の実際を知ることや、地域で生活する人々の健康に目を向けることができるように、地域の人々との交流がもてるような授業を計画することも検討したい。